

塘研究室現地調査報告

4月23日に表磐梯と裏磐梯にて今シーズン最初の現地調査を実施しました。塘研究室の4年生、林宏至朗君の調査に塘と黒沢研究室の大学院生・首藤君が同行しました。調査内容として表磐梯の林君の調査池での水草のコドラート調査と底生動物の採集、そして環境測定用機器の設置を予定していましたが、雪解け水で池の水が増水しており、水草もまだほとんど見られなかったため、コドラート調査と機器の設置は断念して次回となりました。首藤君に同行してもらったのは水草を教えるためでしたが、それができずに残念でした。ただし、タヌキモ類やジュンサイ、ヒシなどいくつかの水草（の存在を示す証拠）が見つかりました。底生動物はかなり活動を始めており、池を一周してみると、イトトンボ科の幼虫はどの場所でもたくさんの個体を見ることができました。他にもコサナエ、コオイムシ類、コセアカアメンボ類、キリバネトビケラ類、ケシゲンゴロウ類、キベリクロヒメゲンゴロウ、チスイビルなどが見られました。昨年秋の調査でこの池から裏磐梯地域の池沼と土湯温泉町の照南湖に生息するヒメシロカゲロウ属の未同定種（池底に堆積したリター層から得られる）が発見されたので、今回は遺伝子解析用にそれを探しましたが、残念ながら通常時の池底に沈むリターまでは網が届かず、採集できませんでした。

午後は裏磐梯のヒメシロカゲロウ属の未同定種の遺伝子解析用サンプルを採集するため、曾原湖付近と小野川湖付近の2ヶ所（遺伝子解析用サンプルがまだない池）でサンプリングをしました。こちらも雪でアプローチできなかつたり、雪解けで増水していたりして、サンプルを得ることはできませんでした。数週間後に再チャレンジする予定です。最後に今年度生物系の研究室で予定している連携研究の調査地のうちの2つの池沼、「川上青沼」と「湯沼」の下見に行ってきました。川上青沼はメダカを含む魚類が非常に多く、また、岸辺付近にはスジエビ、ヌカエビ、フタバカゲロウがたくさん見られました。ちなみにアメリカザリガニもいました。湯沼でも魚類が多く、水生昆虫としてはチビミズムシ類、小型のガムシ類、コツブゲンゴロウ類の生息を確認しました。湯沼付近では成虫越冬のオツネトンボ類とともに、今年羽化して活動しているシオカラトンボ（♀）も見られました。

予定していた調査はできず、確保したかったサンプルも採れませんでした。気温が高く、汗ばむくらいの良い天気の中、久しぶりの磐梯山周辺での池沼調査を満喫できました。次回は成果があがったことを報告できるように頑張ります。

